

森村川村ゼミ

5月24日分議事録

記入者：池戸 漠

司会者：小川慶太

発表者：小原章史・桑原翔・田中茂裕・豊島典明

議題

モダニズム的解決策はどうか。

発表班の考察

一概に良かったとは言えない。

理由：低所得者を集めた都市計画など、どのような結果になるかを予想できず失敗に終わったものが目に付く。

建築物自体は良かったと思うが、システムに問題があったのではないか。なぜなら都市は人が住むところであるからもっと柔軟性のある計画と都市構造が必要だったのではないか。

質問

○都市から読み取れる事はなにがあるのか。

○都市が言説だというならば、何か思惑があつて都市をつくるのか、それとも都市が出来たあとで都市を読み解くのか。

●スペインは土地がないからアパートが多い。それは都市に住む人が土地の広さに比べて多い。

●都市から感じ取れるものがあれば、比喩的に都市は言説だといえる。社会背景から建築が建てられたり、逆に建築や都市がつくられて後に読み取る事も出来る。

●思惑が都市を造る例としてNYが挙げられる。

9.11以降NYは建築と地上げラッシュが続いている。昔から住んでいた場所ならば、レントコントロールによって昔の低家賃のまま住んでいたが、現在は地価が流動的になり、低所得者は追い出された。

この政策に対して反対があつたがそれも押しえつけて、今はハイパーモダン建築が建ち始めていて、そこに住むようになった金持ちが人種差別をしたり、低所得者を見下したりするために、レントコントロールをはずした事で白人の金持ちとその他一部の金持ち有色人種が牛耳るようになった。

記入者の考察

都市や建築物は様々な人々が生活する場であるべきだと思うので、モダニズム計画のように都市の機能や人種をセクションに分けゾーニングしては、今の NY もモダニズム計画と同じような批判が出てくるのではないか。したがって、ある思惑をもって都市を計画するならば、合理性や特定の利便性の追求だけではなく、多少の不都合をも含めたフレキシブルな都市を計画、開発すべきではないか。また、都市をあとから読み解いた場合には、その都市が与えている影響や問題を踏まえて、都市のあり方を時には修正していく必要もあるだろう。